キャラクター名: プロキオ

プレイヤー名:

種族	コボルド	種族特徴	種の限界/軽視/小さな匠/弱点(魔法+2)		
生まれ	斥候	性別	オス	年齢	7
冒険者Lv	3	経歴	友人、恋人を食べた		
経験点	290		片親、あるいは先祖が人族		
			人族に懐柔(買収)された		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	9	器用度	9			18	3
		敏捷度	9			18	3
体	4	筋力	2			6	1
		生命力	3			7	1
心	5	知力	7			12	2
		精神力	11	2		18	3

技能	Lv.	技能	Lv.
スカウト	3		
レンジャー	1		
セージ	1		
ミスティック	3		

技能

	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾

		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	クロースアーマー		1		2
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能		合計値		0	2

武器

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				2d+													
				2d+													
				2d+													

戦闘特技

スローイング	IB30	p	p
ディフェンススタンス	IB37	p	p
		p	p
		p	p
		p	p
		p	p
		p	p
		p	p
		p	p
		p	p
		p	p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔神語	○	
妖魔語	○	

練技/呪歌/騎芸/賦術

幸運の星の導きを知る	
幸運は勝ち戦を授ける	
星は剣を導く	

名誉アイテム	点数

名誉点 所持 0 /合計 0

一般装備品 (消耗チェック)

冒険者セット	○□□○□□
スカウト用ツール	○□□○□□
ミスティックロッドx2	○□□○□□
ポーションボールx8	○□□○□□
ヒーリングポーションx5	○□□○□□
アウェイクポーションx2	○□□○□□
ファニーアポーション	○□□○□□
救命草x3	○□□○□□
魔香草x2	○□□○□□
マスク	○□□○□□
	○□□○□□

所持金 866 G

預金・借金 G

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	18 m	54 m

回避	防護点
2d+ 0	2

HP
16

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 3	2d+ 6

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 4	2d+ 6

MP
18

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首 チョーカー	『ちゃっぴー』と書かれた札が下がっている
背中	
右手	
腰	
足	
その他	

装備品	説明
左手	

その他メモ

蛮族の村、何の変哲もなく迫害されているコボルドの集落に産まれる。
当たり前のように親の顔は母親しか知らない。この村のコボルドなら良くあることだ。
幼少の頃、魚を釣り上げているグレムリンを見かけ、棒に紐をつけて水の中に入れれば魚が取れると勘違い。それ以降、プロキオの日課は針もエサもない状態での魚釣りとなる。
もちろん魚が釣れるはずはないのだが、毎日続けていたため、竿にくくりつけていた紐に水藻が育ち、奇跡的にそれをエサにしようとしたカニが釣れる。
カニが食べれると知らない子供のプロキオは、そのカニに『アクベス』と名前を付け、自身の友達にしようと家に持ち帰った。
その日の夕食はカニだった。カニが食べれることを知ったプロキオは、またひとつ賢くなったなと思った。食事を終えるとなぜかアクベスはいなくなっていた。きっと自分の家へ帰ったのであろうと思った。そしてアクベスは友人であるから、きっとまた会えるとも思った。

月日はたち、生まれてから4度目の冬を越えた頃。村に珍しく人族がやってくる。そして、プロキオを指さし母親へ銀貨袋を渡していた。

自動失敗チェック

□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟